

















■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2021(v1.2)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称) 合同会社Y&Pホールディ	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	-------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.5 /5	  	がんばろう: 
2 地球温暖化対策の推進	2.0 /5	 	がんばろう: 
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5	 	がんばろう: 
4 高齢社会への対応	2.0 /5	 	がんばろう: 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつう 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2021年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2021(v1.2)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.5	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.2
特になし。		一般的な耐用年数のコンクリートを採用しています。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 2.0	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3	LR2/ 1.1 節水	スコア 1
ルームエアコンにODP=0の製品を使用しています		特になし。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
特になし。		特になし。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 2.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 2	建物の外皮性能(BPI評価)	
特になし。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物的一次エネルギー消費量(BEI評価)	
		非住宅:BEIm値、住宅:—	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

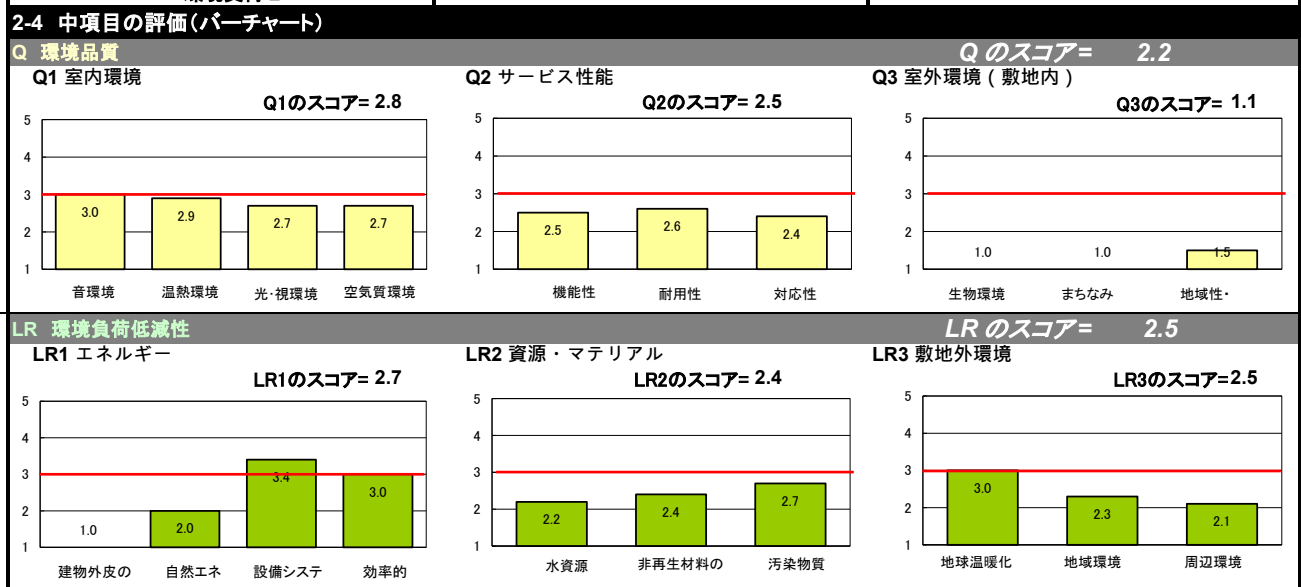
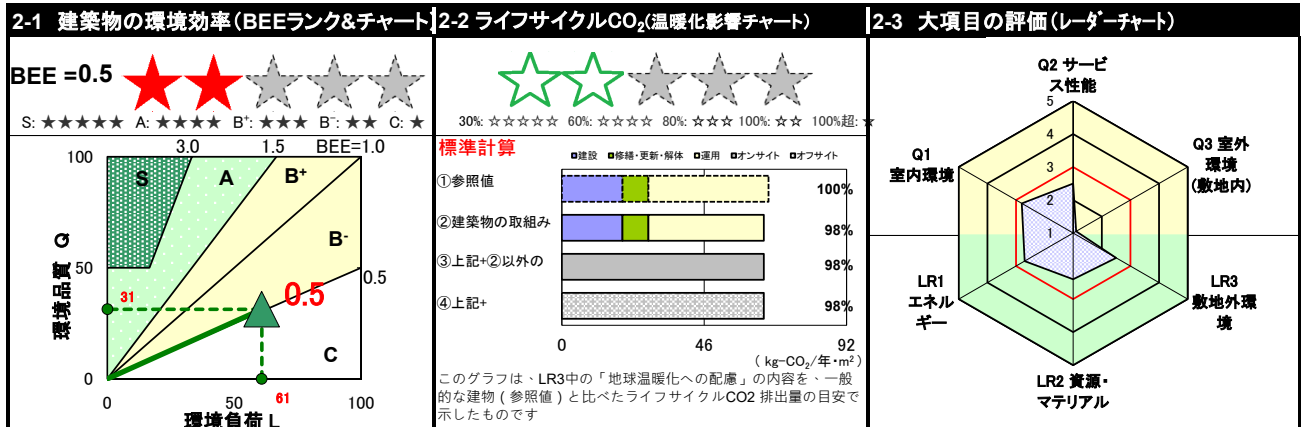
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

## CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.2)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)合同会社Y&Pホールディング	階数	地上12F
建設地	福岡県北九州市小倉北区浅野二丁	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年8月19日
敷地面積	669 m <sup>2</sup>	作成者	熊澤 茂樹
建築面積	288 m <sup>2</sup>	確認日	202●年●月●日
延床面積	3,176 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇〇



3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> BEIが0.95以下となるように設計し、省エネルギー化を図っています		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 熱橋部分に断熱材補強を入れています。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高2.6m以上を確保しています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> 建具にLow-E複層ガラスを採用して、省エネ化を図っています。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ルームエアコンにODP=0の製品を使用しています。	<b>LR3 敷地外環境</b> 適切な棟間距離を確保できる配置にしています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版**  
 (仮称)合同会社Y&Pホールディングス様マンションⅡ新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.2
Q1 室内環境					0.40		-	2.8
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル		—		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		—		3.0	1.00	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		—		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		—		-	-	1.0	-	
2 温熱環境				1.8	0.35	3.1	1.00	2.9
2.1 室温制御		—		2.2	0.71	3.3	0.50	
1 室温		—		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		等級4相当を確保できる外皮、設備を導入しています。		1.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		—		1.0	0.29	3.0	0.20	
2.3 空調方式		—		-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境				2.2	0.25	2.8	1.00	2.7
3.1 昼光利用		—		3.0	0.30	2.5	0.30	
1 昼光率		—		3.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口		—		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		—		2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		—		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		—		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		—		1.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				2.6	0.25	2.7	1.00	2.7
4.1 発生源対策		—		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		—		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		—		2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		—		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		—		1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理		—		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		—		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5
1 機能性				2.1	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		—		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		—		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-	
3 内装計画		—		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		—		2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		—		1.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		—		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		—		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		1.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.2</b>	0.30	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>2.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり	-	3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	3.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		-	-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.2</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>1.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		-	<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		-	<b>1.0</b>	0.40	-	-	<b>1.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.5</b>	0.30	-	-	<b>1.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>1.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		-	<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		-	<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		高効率な設備を採用しています。	<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>		-	<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		-	2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		-	2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.7</b>	0.20	-	-	<b>2.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>		-	<b>2.6</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	-	2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		-	<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		-	<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.1</b>	0.33	-	-	<b>2.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	0.33	-	-	
2	振動	-	3.0	0.33	-	-	
3	悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称) 合同会社Y&amp;Pホールディングス様マンションⅡ 新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	1.0	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 主な指標

## Q1 室内環境

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値 3.5	外皮UA値 0.8	η AC 1.2	η AH 1.0	
屋光率	1.5%				
自然換気有効開口面積率	3.3%				

## 3.1.1 屋光率

## 4.2.2 自然換気性能

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

## 1.2.1 広さ感・景観

## 1.2.2 リフレッシュスペース

## 2.2.1 躯体材料の耐用年数

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

## 3.1.1 階高のゆとり

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

## 3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.35 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	20 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	2.76 m					
壁長さ比率	61.0%					
床荷重	4000 N/m2					

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%				
空地率	57%	水平投影面積率	8%	地表面対策面積率	0%	舗装面積率	57%

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

## 2 自然エネルギー利用

BPI/BPI <sub>m</sub>		- 断熱等性能等級		等級1 相当				
自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年㎡		採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%	
				通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%	
BEI/BEI <sub>m</sub>	非住宅	0.96	住宅	0.95	太陽光	0kW	太陽熱等	0kW
							蓄電池	0kW

## 3 設備システムの高効率化

## LR2 資源・マテリアル

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

## 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

## 3.2.1 消火剤

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

## 3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	675		

## LR3 敷地外環境

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	65% 隣棟間隔指標Rw 0.47								
地表面対策面積率	0.0%		屋根面対策面積率	0.0%		外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積Sb	668㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	28.965 m		基準高さHb	34.98 m		
緑地	㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡